

おしごと拝見

市内企業の優れた技術力や製品、サービスを紹介します。

vol. 16



本社



エンターテインメント事業部 技術部長 佐藤 久志 さん

エンターテインメントから産業機器まで

当社はコンピュータ技術を使った広範囲なソフトウェア、ハードウェア開発を行う専門企業です。コンテンツ開発を行うエンターテインメント部門と、ハードウェアや組み込み開発を行うシステムソリューション部門があります。

東京（秋葉原）にあるグループ会社と連携し、顧客企業からの受託開発を中心に事業を展開しています。

製品の企画立案から開発、完成に至るまで、一貫したものがづくりを行うことができるのが特長です。

あのゲームもメイドインサカタ！

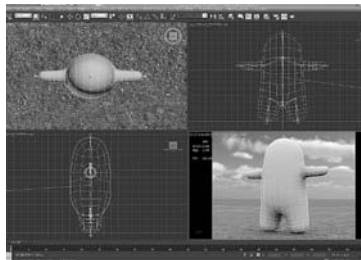
当社はこれまで地元酒田で、特に家庭用ゲームソフトや業務用アーケードゲーム機など200種ほどの製品を制作してきた実績があります。ショッピングセンターの屋内遊戯施設で見かける製品には、当社が開発したのも数多くあります。

5年ほど前になりますが、当時の日本中の小学生をとりこにした「ムシキング」や「ラブアンドベリー」も当社が開発に参画した製品です。

私たちはこれからもエンターテインメントを通して、お子さまから年配の方まで、あらゆる方々に喜びや笑顔、夢や感動を届けていきます。

【企業の概要】

沿革 昭和60年、東京都台東区にあるエス・イー・エス株式の子会社として設立
 酒田エス・イー・エス株式会社
 資本金 4,000万円
 住所 酒田市あさほ町654-1 ☎23-1750
 代表者 取締役社長 渡部 宏一
 従業員数 11人
 事業内容 家庭用ゲームソフトおよびアーケードゲーム開発、各種ハードウェアの受託開発、フォームウェア開発
 ホームページ <http://www.sas-sakata.co.jp/>



制作途中のキャラクター

デザイナーのこだわりが少しづつ形になります。



オフィス風景

何度もトライアンドエラーを繰り返し、面白さを追求しています。

あったかいご 62

お問い合わせ／市介護保険課予防支援係 ☎26-5755

これからの療養の場を考える

皆さんは自分の最期をどこで迎えたいと考えますか。
 国の意識調査では5割以上の方が、自宅で最期を迎えたいと希望しています。しかし実際は病院で最期を迎える方が7割以上と圧倒的に多く、自宅で亡くなるのは1割程度です。病院は積極的な治療を行う場として長く療養する所ではなくなくなっており、介護施設は高齢者数の推移予測からベッド数を大きく増やすことが見込めない状況です。このような中で、これからは在宅での療養を選択する方が増え、在宅療養のニーズはますます大きくなるものと思います。私たちは、病院で亡くなるのが当たり前という考えを柔軟に見直す時期にきているのかもしれない。

在宅医療は自宅での暮らしを支えてくれる資源の一つです。定期的な訪問診療や急に具合が悪くなったときの往診などがあり、検査から投薬・点滴などの各種治療が可能ですが、基幹病院と在宅かかりつけ医との連携も進んでいます。また介護保険のヘルパーや訪問看護師、福祉用具、その他利用できる地域の資源をうまく活用することで、最期まで自宅で過ごすという希望にも対応できるようになってきました。
 本市でも一人暮らしや高齢者夫婦の二人暮らしが増えていきます。療養が必要になったとき、どのように過ごしたいか、どんな医療を受けたいか、最期はどこで迎えたか、元気なうちから家族へ伝えておくことが大切です。

